

質問項目以外にも皆様から貴重なご意見をいただきましたので、記載させていただきます。

※太字は日本障がい者スポーツ協会からのコメントです。

申請手続き関係について

・大学で一括申請する場合、学生個人の申請書に押印は必要でしょうか？
メールで申請書の提出を受け取るが押印があると持参させなくてはならない。大学が一括して申請する意味がないのではないかと。

👉資料1にもありますように、今年度の申請に際しましては一括申請の場合には「様式-1」を省略することが可能となりました。

・申請書の様式をエクセルファイルで一括していただきたい。一人がワードとExcelの両方で作成するのではなく、Excelであればシートを加えることで作業の簡略ができる。また「ひらがな」「カタカナ」が様式で違っており混乱する。

👉ふりがなが混在し、ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ありません。昨年途中から改訂いたしました新様式におきましては、ひらがなで統一されておりますのでよろしくお願いいたします。

・近い将来、ペーパー申請でなく、ネット申請を導入してもらいたい。

👉セキュリティ対策等のさまざまな問題点を想定しながら、有資格者の様々な年齢層の皆さまがご利用しやすいシステムを模索しております。方向性が出ましたら、随時お知らせさせていただきます。

その他

・テキスト安全管理（リスク管理）の内容の充実を希望します。
事例とその対応方法についてシュミレーションができると嬉しいです。

👉今後のテキスト改正時の参考とさせていただきます。

・対面とオンライン授業を併用する中で、特に座学のみの内容は、標準カリキュラムに応じたオンデマンド教材があれば、全国統一した講義内容の実施や、コロナ禍での授業運用がスムーズになるのではと感じました。eラーニングの仕組みも含めまして、ご検討頂けると幸いです。

👉オンデマンド教材等のご用意がなく、現場の先生方にはご苦勞をおかけいたしております。
コロナの影響を受けまして、当協会が予定しておりました講習会も中止を余儀なくされたものが多く、有資格者の皆様対象にウェブでのオンライン講習会を企画しております。内容につきまして、新カリキュラムに関したのも含まれておりますので、すでに資格を取得している先生や学生の皆様にも参考にさせていただけるかと存じます。詳細につきましては当協会ホームページ上にてご案内する予定ですので、ぜひご利用くださいますようお願いいたします。

現状のカリキュラム通りに進まなかった場合は、どのような対応となるのか気になっております。初級障がい者スポーツ指導員資格を申請する権利が与えられるかなど、学生にも伝える必要があると考えております。

大変な現状ではありますが、ご対応ありがとうございます。

出来るならば、協会より実技系や障がいのある人との交流について、何らかのコメントや指針のようなものが欲しいです。また他校での情報などもいただくと助かります。

👉この度のコロナ禍における対応につきましては、4月13日付「認定校における基準カリキュラムの読み替えおよび活動実績の取り扱いについて」の文書を認定校宛に送付させていただきます。当協会HP内にも同じものを掲載しておりますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

また「まとめ」において交流・実技科目の対応事例を何件か記載させていただきましたのでご参考になればと存じます。判断が難しいケースなどがございましたら、お気軽にご相談ください。

このコロナの状況で多くの競技会やイベントが中止になっています。これをどうすれば補充できるのか悩ましいところです。このような状態のときに研修会中止はやむを得ないのかと思いますが、むしろオンラインでの指導法等の情報が知りたく、そのような研修会を開催してもらいたいと願うばかりです。

今年度は、中級スポーツ指導員における指導実績を積ませることが非常に厳しい状況です。しかしながら、これがないと取得後の活動に大きく影響が出そうな気がします。資格は持っているものの、どう対処してよいか、自分からの積極的な働き方がない限り、何もしないで終わるケースが増える、イコール取得者が減少するのを感じます。

認定校(本学)周辺地域で「障がい者スポーツ」にかかる大会やイベントがほとんど実施されない、また先の見通しが立たない現状では中級の活動実績80時間以上を実施することは非常に困難である。貴協会として、これに代わるコンテンツなどを提供していただくことはできないか。それを認定校の中で取り組めば、活動実績と同等とみなすなど、認定機構として検討いただきたい。当面の限定的な対応となるのか、また活動実績のあり方そもそもの中身を見直す必要が出てくるのではないかと考える。

📌 コロナ禍において実習・交流が難しい現状の中、所定時間の確保を目指して皆様には大変なご尽力をいただいておりますこと感謝申し上げます。当協会としては、今年度、中級認定校対象の活動時間80時間に満たない場合の対応について特例措置を講じる一方で、上記のご意見にもありますように、現場での実習・交流体験がないまま資格認定となる状況に難しさを感じている次第です。

実習に代わるコンテンツということも検討しておりますが、実際に当事者と触れ合うことやスポーツ現場の経験を積むことと同等のものがご用意できていないのが現状です。皆様からご意見をいただきながら検討を重ねていきたいと存じますので、引き続きシェアいただける情報等がございましたら、ご提供くださいますようお願いいたします。

例) コロナ禍における活動実績代替 (事務局からの提案)

👉 研修会・講習会という形ではないが、オンラインで障がい当事者や指導者・ボランティアの体験談などを聞いたり、メディアで発信されている動画やテレビ番組などを観る

👉 実際のイベント・教室などのボランティアはできなくても、活動した年の活動記録写真・動画やレポートなどをもとに担当の先生や先輩学生・OBなどから昨年までの体験をシェアしてもらう。

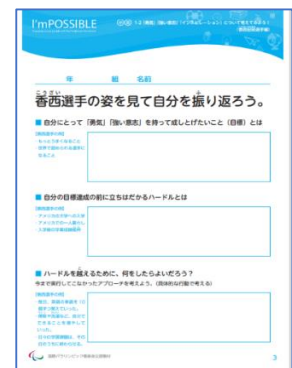
また、以上のようなことを体験した後、感想をグループワークでシェアしたり、ワークシートを記入したりするなど、自ら考え、発信する機会を設けることで、より学びが深まると考えております。以下の教材「I'mPOSSIBLE」や、同封の【資料3】障がい者スポーツ関連動画の紹介などもご利用いただけましたら幸いです。

参考教材) 国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE (アイムポッシブル)』

https://education.tokyo2020.org/jp/teach/texts/iampossible/#short_lesson

<https://www.parasapo.tokyo/iampossible/>

↓ ワークシート



活動実績に含まれる内容についても、改めてご確認ください。→

中級認定校の活動実績について(活動実績証明(中級対象資料)より抜粋)

【活動実績に含まれるもの(例)】

- ・障がい者スポーツに関わる研修会や講習会に、受講者として参加した。
 - ・障がい者スポーツに関わる研修会や講習会の講師として携わった。
 - ・障がい者スポーツに関わる競技会やイベント、教室等に、審判員、補助員(ボランティア)等として携わった。
 - ・障がいをもち個人(家族や友人等を含む)のスポーツ活動に加わった。
 - ・障がい者スポーツ団体(障がい者スポーツ協会・障がい者スポーツ指導者協議会・競技団体等)の支援・協力をを行った。
- *「スポーツ」の中には、競技的なスポーツだけでなく、レクリエーションスポーツ、健康運動(体操)なども含まれます。